

蒙古襲来

13 世紀、アジア・ヨーロッパにまたがるモンゴル帝国が形成された。5 代皇帝フビライ=ハンは、国号を元と改め、日本に服属を求めた。これを幕府が拒否したため、元は 2 度にわたって日本を襲った。襲来を機に、幕府は非御家人を動員する権限を得たが、反面、防衛費負担が問題となって幕府崩壊の要因を作った。

○蒙古襲来

●大帝国「元」

13 世紀初め、チンギス=ハンがモンゴル系遊牧民を統一した。
⇒やがて東は中国東北部、西はイランにいたる帝国を建国した。



チンギス=ハンの子は金を滅ぼした。

◇この頃、帝国はユーラシア大陸の東西に拡大



チンギス=ハンの孫で 5 代皇帝の⁽¹⁾ _____ は、
帝国の首都を大都（北京）に定め、また、国号を⁽²⁾ _____ と改めた。

→(1) は朝鮮半島の⁽³⁾ _____ を全面的に服属させた。

⇒さらに 1268 年、(1) は日本に服属を求める国書を送った。

◇当時、大陸では日本を黄金の島ジパングと伝える噂あり

◇(3) …服属後も高麗で 1270~73 年に⁽⁴⁾ _____ の乱が発生



図1 チンギス=ハン



図2 フビライ=ハン

アジアの見聞者—マルコ=ポーロ

父ニコロに連れられて、16 歳のマルコ=ポーロはフビライ=ハンに^{はいえつ} 拝謁した。帰国後に獄中で彼が語った体験は『東方見聞録』にまとめられた。この本によって黄金の島ジパングのイメージは強調され、西洋で広まった。なお、このイメージは平泉中尊寺金色堂の話が元と言われる。



●襲来の予感

元の国書が届く数年前、北条時頼の子⁽⁵⁾ _____ が惣領^{そうりょう}になった。

⇒(5) の頃から北条氏の惣領を⁽⁶⁾ _____ と呼称した。

◇(6) …北条義時の戒名に由来し、この地位の者が原則的に執権を継承



1268 年、元の国書が到着するが、朝廷は返書しなかった。

⇒度々国書が到着するが、幕府も「返書の必要なし」と回答を拒否した。



幕府は元の襲来に備え、御家人の奉公に⁽⁷⁾ _____ を新たに加えて、九州北部の沿岸を防備させた（制度化は文永の役後）。



図3 北条時宗

●蒙古襲来

<1274年、⁽⁸⁾ _____ >

元軍が襲来し、火器や集団戦法に御家人は苦しんだが、元軍は途中撤退した（理由：暴風！？）。



再度の襲来に備え、幕府は博多湾沿いに、

⁽⁹⁾ _____ (_____) を構築した。

⇒一方、その後の元は⁽¹⁰⁾ _____ を滅ぼして、日本への2度目の遠征を計画した。

<1281年、⁽¹¹⁾ _____ >

元軍が軍を東路軍と江南軍の二手に分けて再来したが、石築地などで苦戦し、暴風をうけて撤退した。



フビライ=ハンの死で、3度目の遠征計画は消えた。

⇒元の2度目の襲来を⁽¹²⁾ _____ (_____) という。



図5 てつはう



図6 防塁



図4 『蒙古襲来絵巻』(「文永の役」の場面)

*竹崎季長^{たけさきすえなが}が自身の奮戦を描かせた絵巻

*蒙古兵3人(左)・てつはう(上)は後世の加筆か



図7 「弘安の役」最中の竹崎季長と防塁

○蒙古襲来後の政治

●幕府の支配権強化

蒙古襲来後、次の①②で幕府の支配権は強化された。

①襲来の際に動員した非御家人を以後も動員する権限獲得

②筑前国に^{ちくぜん} _____ の設置

◇(13) …北条氏が務めた、九州の政務・裁判・御家人の統率を担う機関

●政治体制の変化—合議から独断へ

蒙古襲来に際して、幕府内の権力が得宗かつ執権の北条時宗に集中した。

⇒得宗の従者を意味する⁽¹⁴⁾ _____ の発言力が高まり、御家人と対立した。

◇(14) の代表は⁽¹⁵⁾ _____ と呼ばれ、幕府の政治を度々主導



1285年、⁽¹⁶⁾ _____

…時宗の子北条貞時^{さだとき}が得宗となった翌年の出来事

…(15) の⁽¹⁷⁾ _____ が有力御家人⁽¹⁸⁾ _____ を滅ぼした事件

⇒やがて、貞時は(17)を滅ぼして、幕府の全権を握った。



以後、執権を務める得宗の独断で、幕府の政治がおこなわれた。

⇒幕府の政治は、合議を重んじる執権政治から⁽¹⁹⁾ _____ に変化した。



図8 御恩奉行に面会する御家人
*竹崎季長(上)・安達泰盛(下)